

「令和6年度 第2回 向日市いじめ防止対策推進委員会」

1 日 時 令和7年2月6日(木) 午後1時30分から同3時まで

2 場 所 乙訓総合庁舎 2階講堂

3 出席者 委員長 中川美保子 大学教授
副委員長 平 正博 弁護士
委員 荒井久美子 臨床心理士
北口 雄一 臨床心理士
草野 超夫 医師

4 内 容

(1) 令和6年度のいじめ調査の結果の概要について

【1回目の追跡のいじめ調査の結果】

- ・認知件数 小学校570件、中学校108件、小中合計年間 678件
- ・未解消件数 小学校 40件、中学校 19件、小中合計年間 59件
- ・解消件数 小学校530件、中学校 89件、小中合計年間 619件

【2回目のいじめ調査の結果】

- ・認知件数 小学校542件、中学校106件、小中合計年間 648件
- ・未解消件数 小学校527件、中学校106件、小中合計年間 633件
- ・解消件数 小学校 15件、中学校 0件、小中合計年間 15件

【学年別認知件数の傾向】

・小中学校ともに学年が上がるにしたがって減少する傾向にあるが、今年度は小学1年生の認知件数に減少傾向が見られ、小学2年生の認知件数よりも少なくなっている。認知件数が多い学年はもちろん、少ない学年においても、教員と児童生徒との信頼関係づくりや教員による休み時間等の児童生徒観察、加えて、個別の丁寧な聞き取りに努める。

【認知されたいじめの態様】

・小学校では、「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」、「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする」、「仲間はずれ、集団による無視をされる」がおおい。中学校でも、小学校と同じ3つがいじめの態様のほとんどを占めている。

(2) 委員からの助言等

(委員) 全国的に見ても、小学1年生の方が、小学2年生よりも認知件数が少ない傾向にある。児童の発達段階に学級での人間関係ができてくるとともに、認知件数が増加すると思われる。さらに精神的な成長があると、認知件数が減る傾向にある。

(事務局) 認知件数の増減にかかわらず、一つ一つの認知件数に対して、丁寧に対応していきたい。児童生徒の思いをしっかりと把握し、普段から積極的に声をかけ、早期発見早期対応を心がけたい。認知した児童生徒については、継続的な見守りを続けていくよう指導しているところである。

(委員) PCやタブレットを使ったいじめの態様が減少しているが、その理由についてどう考えているのか。

(事務局) 日常から、PCやタブレットの使い方やモラルについては、十分に指導しているところである。また、学校によっては企業と連携し、情報モラルに関する出前授業を実施するなど、児童生徒の啓発に努めている。学校便りや学級懇談会などを利用し、保護者への啓発を積極的に行っている学校もある。

来年度に向けて、継続的に情報モラルについての啓発を行っていききたい。

(委員) PCやタブレットによるいじめ事象については、予防教育が効果的であると考えるので、今後も児童生徒や保護者も巻き込んだ予防教育を進めていただきたい。

(事務局) 各校の取組状況を把握しながら、予防教育の推進に努めていきたい。